



四時から  
四資格。

# 法学部座談会

今回の企画「四時から四資格」は、本学で主に16:00から集中している「教職課程」・「図書館学課程」・「学芸員課程」・「社会教育主事課程」の四つの資格課程のことです。

今回は、教職課程を担当されている谷川先生・五十嵐先生のお二人の司会のもと、四資格課程それぞれに挑む学生に、在学中に資格取得を目指すことを改めて問いたいとの趣旨で行われました。メンバーは、教職課程から村上求さん（2部4年政治学科。現石狩市議会議員）、吉田佳乃子さん（2部2年政治学科）、図書館学課程から北山佑樹さん（2部3年法律学科）、学芸員課程から松野茜さん（1部3年政治学科）、社会教育主事課程から松浦真季さん（1部3年政治学科）にお集まりいただきました。さらに、本学卒業生で現職教員でもある南拓磨さん（小樽市立長橋中学校にて3年生担任）にもお越しいただいています。

## ◎参加者

### 村上 求さん

2部4年政治学科：現石狩市議会議員



### 吉田 佳乃子さん

2部2年政治学科

### 北山 佑樹さん

2部3年法律学科

### 松野 茜さん

1部3年政治学科

### 松浦 真季さん

1部3年政治学科

### 南 拓磨さん

小樽市立長橋中学校教員

## ◎司会

### 谷川 信幸先生

五十嵐 素子先生

谷川 皆さんには4つの項目をお聞きします。第一にその課程を履修した動機、第二に午後4時から各課程を履修できることや、1部でも2部でも履修できる科目があることに関する感想、第三に自分の周りに資格を持って活躍している知人や先輩がいるかどうか、課程で学んでいくうえでそうした人が見つかったかどうか、第四に教職以外は資格を取得してもそれをすぐ就職に活かすのは困難な状況ですが、それでもなお課程を学びたい理由は何かです。では本日お時間に制約がある村上さんからお聞きします。



司会：谷川 信幸 先生

村上 第一については、私は建設と教育委員会を所管しており、仕事をする上で現場を知らないと分からない問題があります。例えば北海道教育委員会と石狩市教育委員会の間には壁があり、風通しがあまりよくなく、市の意見がなかなか道へ伝わらない問題があるのです。そこで教職課程を学び、少しでも道教委と市教委の関係を円滑にしたい、市の教育長、中学の校長先生、その他の先生方にお会いして現場を知りたい、できれば荒れている中学を実習で訪問し、現場を確認したいという思いがあります。

五十嵐 教職免許を取るのが目的ではなく、現場に入るためにはわざわざ4年分の単位を取得し教育実習もするということですか。大変ですね。

村上 教職課程だけを目的に入学したではありません。石狩市の条例づくりには北海学園大学法学部の神原先生、山本佐門先生、横山先生、佐藤先生などが有識者としてかかわっておられ、北海道議会議員がそうした先生方の教え子であるケースもあることを知り、教職課程と同時に政治学の勉強をしたいという気持ちもありました。

村上 第二については、社会人にとってはありがたい制度だと思います。北海学園大学は課程に限らず、専門科目も夜と昼に同じ内容の授業が行われており、定期試験以外はどちらを

# 四時から 四資格。

受講しても構いません。とてもありがとうございます。

第三については、大学入学後に身近に先輩がいたことを知りました。市議会議員から道議会議員になり、道議会引退後は北海学園大学大学院に入學し、横山先生のご指導の下で大学院を修了された方がいます。その先生に相談したところ、現職（市議会議員）のまま学業をやるのは大変だが頑張れ、と助けていただいている。

第四については、大変だなという印象です。石狩市も少子高齢化や学校の統廃合が進んでいます。しかし友人は、教職免許を取得して大学卒業後、一般企業に勤めました。その後、退職して期限付き教員になりました。2年後には正規の教員になりました。一発でスムーズに教員になれなくても、いろいろな社会経験を積んでもから教員になるのも、もっと素敵な教員になれるのではないかと、その友人を見て思いました。

**司会** せっかくですから、お帰りの前に、なにかコメントがおありますか。



村上 求さん

村上 時代がかなり変容していると感じます。教職関連の相談などを受けると、自分が学生の頃はここまでめ細かなことはなかったと感じます。指導方法も昔と今では違う。昔は口で言ってもわからないときはビンタをはるのが普通でした。ビンタされた生徒のほうが自ら反省したものでした。それが今はビンタをはると体罰だとと言われ、先生はクビになります。今はナーバスになっています。繊細すぎるのでないかという感じを強く受けています。

それから現場の先生方には、もっと市議会議員に情報提供をしてほしいです。3. 11の時、17都道府県から給食の食材が来なくなり、食材の仕入れ値が高騰し、従来通りの給食提供が困難になりました。そこで議会でその情報を提供して説明したところ、翌月には、福島の汚染地域以外の地域から食材を確保できることになり、問題が解消されました。困っていること



があれば早めに市議会議員に情報提供してほしい。そうすれば対応できる場合もあるのです。

教職免許もその一環ですね。教育委員会で発言する時、教職免許を持っている人が発言すると、発言の重みが違うのです。実習までしたとなればなおさらです。それで免許を取ろうとしています。

谷川 教職課程を履修したこと、教職に対する考え方方に変化はありましたか。

村上 仕事上、考え方方が変わりました。議会で質問をする時、こういう教育法を活かしてはどうかなどと発言できるようになりました。情報が増えるとプラスの効果はあります。

ここで村上氏が退席。

谷川 では、ほかの皆さんにも聞いてみましょう。まず、第一の課程履修の動機です。

南 小学5、6年生の頃、先生って面白そう、俺は先生をやろう、と思いました。中学2年の時の先生の影響も大きかったです。中学3年生の時、保護者との三者面談があり、先生から「南くんは先生をやるといい。一緒に先生をやろう」と言ってもらいました。それからずっと先生を目指していました。その先生の影響が最大です。

吉田 私はもともと教育大学岩見沢校を目指していました。高校まで音楽一筋で勉強し、音楽教員を目指していましたが、教育大学に落ちて1年浪人生活を送る中で、音楽以外に興味

がわきました。例えば私は修学旅行で沖縄に行き、沖縄の歴史や基地問題を初めて知りましたが、こうした経験を生徒に教えたいと思い、社会の先生を目指すようになりました。そこで社会科の免許が取れる北海学園大学に進学しました。教職課程を履修することは大学入学前から決めていました。



吉田 佳乃子さん

北山 自分は18歳から働いており、勤務先は図書館でした。高校では図書局長でしたが、図書館司書という資格があること自体は18歳の時点では知りませんでした。2部でも司書の資格を取ると知り、卒業単位の取得も順調なので、夢をあきらめずに、3年からでも取れる司書資格を取ろうかと考えました。

五十嵐 夢をあきらめずにとおっしゃいましたが、司書になるのが夢だったのですか？

北山 図書館司書の資格のあるなしで、図書館内の仕事ぶりが違うのです。すごいなあと思いました。図書館学を学んだ人は違います。それでやろうと思いました。

# 法学部座談会

**松野** 小さいころから美術館や博物館によく連れて行ってもらいました。動物園よりも植物園のほうが好きな子供でした。図書館にもよく行きました。美術館や博物館で子供にもわかりやすく説明してくれる人を尊敬していました。(相手の)年齢にかかわらずわかりやすく説明できること(能力)に憧れました。それで学芸員課程を履修しました。



松野 茜さん

**松浦** 大学に入ってから、何か課程を取りたいと考えました。自分は教員に向いていませんので、残る図書館司書と学芸員と社会教育主事のガイダンスすべてに出席しました。社会教育主事という仕事は、いろいろ人と出会うことができる、大学の中にもう一つの大学があるイメージであると聞き、これはおもしろうだと思い履修しました。

**谷川** では第二の質問です。教職課程の場合、毎年、履修学生の半分ぐらいの学生が途中で挫折します。学部の勉強との両立が大変だからです。働きながら在学している人はなおさら大変でしょう。しかし免許が取れた人は、履修してよかったといいます。いかがでしょうか。  
**南** 大変でした。でも夜も履修できるのは助かります。午前中は専門科目を履修し、夜は課程の勉強をする。免許を取りたいので(多少辛くとも)がんばるし、今思えば楽しかった。この世界に入って助かったのは先輩が多いことです。俺も北海学園大学の卒業生だと言う方が多いです。1部・2部両方で学べるのは大変ありがたい制度です。

**吉田** 私は2部生です。勉強が大変なのは1年がピークでした。法学部の科目よりも教職科目を頑張りました。しかし教職科目の試験は論述形式が多く助かりました。それに2部が始まる時間よりも前に(4時から)課程を履修できるのは、2部の勉強との両立が可能という意味で助かりました。つまり教職の授業は基本的に1部で受け、専門の勉強は2部の時間帯にしっかりでき

ます。助かります。

**北山** 図書館学は2学期開講なのでまだ一度も受講していません。4年の1学期は図書館学の科目を全部取れる予定です。卒業後でも司書の資格を取ることができます。仮に4年で単位取得に失敗しても、また挑戦できます。北海学園大学は地下鉄にも直結しているし、素晴らしい環境だと思います。

仕事を終えてから大学に来て専門科目を学んでいます。3年生の1学期で卒業要件の単位数が揃うので、3年生の2学期からは、夜間の講義はほぼすべて図書館司書の勉強に充てる予定です。学費は4年生まで払うので、何かしないと勿体ないという意識があります。職場は大変理解があり、とても助けられています。

**谷川** 北山さんは障害があり大変ですが、地下鉄直結は通学しやすいですね。本学のバリアフリーについて何かご意見はありますか。

**北山** 北海学園大学のバリアフリーはすごいと思います。自動ドアも何か所もありますし。ひとつ改善を求めるのは、図書館のエレベータが夜9時までしか使えないことです。2部生なので講義が終わる9時以降に図書館の本を見たい場合がありますが、わざわざ用務員の方に言わないとエレベータを開けてもらえず不便です。  
**松野** 1年生の時は1限から7限まで、午前9時から午後9時まで大学にいました。1年生の時が一番大変でした。2、3年生になり、(教員が)授業で言っていることがわかるようになってくると、午前9時から午後9時まで勉強しても面白くなり、もっと知りたくなり、苦にならなくなりました。何でも続けることは大事だと思います。

**松浦** (社会教育主事の科目は)年間を通してずっと埋まっているわけではなく、週に2回など、ほかの課程に比べると少なく受けやすいです。ただ実習があります。今年は浜頓別に1週間以上、去年は日高少年の家に1週間以上行き、大変でした。

**五十嵐** その実習では何をするのですか。

**松浦** 子供たちと一緒に泊まり、学校まで送ったり、一緒に勉強したり泊まったりという活動のお手伝いをします。教育委員会所管の活動です。

**谷川** つぎに3番目のテーマ、資格を持って生き生きと活動している先輩や知人はいますか。

**松浦** 実習で恵庭市の社会教育主事の吉野ゆうたさんにお目にかかりました。北海学園大学社会教育主事課程のOBです。吉野さんからはよく教わっています。吉野さんから他の方を紹介していただくこともあります(例えば恵庭市子ども未来部子ども家庭課の藤野真一郎さん。北大出身)。社会教育主事は種をまく仕事をするのだと聞きました。それがいいなと思いました。楽しいな、面白いなと感じています。

**南** 一番影響を受けた人は校長先生です。北海学園大学の卒業生ではありません。校長先生は「失敗したら俺が責任を取るから、何でも挑戦しなさい」と言ってくれ、おかげで自由にやらせていただきました。この校長先生の一言、校長先生の存在が、自分の中では非常に大きいです。



南 拓磨さん

**吉田** 理想の先生は何人かいます。中学の社会の先生がすごくかったです。すべての知識を持っておられました。読めない漢字がなく、大変尊敬しています。憧れの先生です。あの先生がいらっしゃらなかつたら、私が社会に興味を持つことはありませんでした。

**松野** 1年生の時、北海道開拓の村で実習があり、隔週の日曜日に仕事(実習)をしました。副館長が実習生を指導してくださいましたが、副館長は言動がはちゃめちゃな自由人で、こんな仕事の仕方があるのか、でもやりすぎではないか、と思いました。自分も楽しみ、相手も楽しませるのは面白いと思いました。

**北山** 2年になったとき中條先生とお会いしました。これほど障害があるすごい先生にお会いするのは初めてでした。中條先生が、「普通の



松浦 真季さん

人と同じ生活をするため、普通の人の2倍努力する」とおっしゃったのを聞き、自分は未熟だと思いました。興味のない科目を無駄に時間割に入れるのはやめ、やりたいことで時間割を埋め、自分も卒業ギリギリまで努力したいです。

**五十嵐** 就職について。資格を持っても、それを活かした職につくのは難しいです。その現実をどう考えますか。

**北山** 図書館司書の資格を取れば、札幌市の図書館で司書として働く可能性が高くなります。それは自分のやりたいことではありません。図書館司書の資格を手にしたら、公文書館などで、一般市民にわかりやすく説明したいです。それが夢です。



北山 佑樹 さん

**松野** 学芸員として就職できるのは数パーセントと聞いています。しかし学芸員の勉強は無駄にはならないし、どんな職業でも就職時に生きると思います。

**松浦** 社会教育主事として勤めたいとは思いません。放送関係に進みたいです。しかし社会教育主事課程を受けて良かったと思っています。座学のみならず、講座の企画や聞き取り調整ができます。こうした経験は公務員でも民間企業でも両方生きると思います。

**谷川** 皆さん方は、資格が直接仕事につながらなくてもよいと思って履修しているんですね。それについて何か意見はありますか。

**松浦** 社会教育主事はほかの課程と違い免許が出ません。市町村などに入り、「あなたを社会教育主事に任命します」と発令されないと社会教育主事にならないし、名乗ることもできません。課程を履修して卒業しても、免許は取れないので、もっと宣伝すべきだと思います。

**松野** そもそも学芸員とは何ですかと聞かれることがあります。学芸員は博物館などの事務室

に座っているだけではなく、結構説明もしますし、理系の知識も必要です。学芸員課程を履修すると幅広く学ぶことができますので、何かに活かしたいと思っています。法学部なので法律を活かせる仕事につければとも思います。将来絶対に学芸員になりたいというのではなく、見聞を広めたくて履修しているという友人が圧倒的に多いです。

**吉田** 卒業後は民間企業に就職し、30代半ばまで勤めてから教員になりたいです。民間企業はカード会社か金融系が希望です。社会の先生は、学校を卒業しただけで社会の知識はあるのか?と思ってしまうので、卒業後すぐに社会の先生になりたいとは思いません。

**南** 私は現役で社会科教育の道へ進んだ者です。教育とは、1教えるには10から20知っておかないと対応できません。私は生徒たちにニュースを見せて、自分（生徒）にも関係があるんだぞというところを感じ取ってほしいと思っています。先生は普通の人以上に新聞、社会系のニュースを把握し、本を読むことが絶対に必要です。

**吉田** さすが現役の先生。圧倒されました。

**五十嵐** 南さんは、以前法学部報でも紹介したように、在学中、震災ボランティアに参加されました。その体験は現在のお仕事に活かされていますか。

**南** 最近教科書が全面改定になり、東日本大震災が1つの大きな項目になりました。防災教育にもつながるし、小樽でも起こる可能性があるんだよと教えられます。自分の体験は極めて貴重であり、行ってよかったとつくづく実感して

います。

**五十嵐** 今日は、皆さんの学習意欲がこれほど高いことを知り、感動しました。

**谷川** 聞きたいと思っていたこと以上に感動しています。法学部の学生にはもっと履修してほしいです。



司会：五十嵐 素子 先生

**五十嵐** 学芸員についていえば、イタリアで美術を学び、その後NPOが運営する美唄の美術館で働いている人もいます。また、独立系のキュレーターとして、必要な時だけ雇われる方法もあります。普通の就職とは違う形で、資格を活かせる時代です。無駄は全然ありません。南くんみたいにハッピーエンドで就職できた人もいますが、順調に就職できなくてもチャンスは必ずある。

教職以外の課程の学生さんのお話が聞けて良かったです。皆さんのがこれほど深く考えて履修しているとは驚きました。皆さんに知らせてあげたいです。

本日はありがとうございました。

（構成：鈴木光）





## 「ご縁」を大切に

### アメリカ文学と「ご縁」

なぜこのような話からスタートしたのかというと、私たちにとって「ご縁」はとても貴重なものだからなんです。ちなみにみ、私がアメリカ文学を自分の専門としているのも、作品解釈を通して生まれるご縁が私をワクワクさせてくれるからです。別にアメリカの文学に限定する必要はないけど、純文学という広義の括りでも同じような現象があると思います。日常生活を送っている時に不思議な出会いがあるのと同様に、作品や作者と私たち読者の間にも不思議な出会いが度々発生します。そして、それが私たち読み手の人生において大きな意味を持つことだってあります。

折角の機会なので、もう少しだけ文学の話をさせてもらいます。私たちには、一度何かに囚われると一生それを忘れられない習性があります。その結果、幼い時や若い時の強烈な体験が大人になっても何かしらの影響を及ぼすこともあります。過去に経験したインパクトの強い思いが心に強烈に刻まれるわけです。そのような経験は誰でもすると思うのですが、問題はそれをどうやって消化するかです。ずっと心の中に残るほどのインパクトがあることですから、そうは簡単に心の中で融解することはできません。一瞬忘れたとしても、ふとしたことがキッカケで私たちの元に舞い戻ってきてしまします。そして、優れた作品を残す作家は、そのような「衝撃」に突き動かされて、作品を書いていると思うんです。

### 他人を深く知ろうとすることが、自分を理解することにつながる

作品読解は作者に残されたそのような傷や衝撃を読み解くことが基本となります。読み解き、発見するだけではまだ道半ば。作者がどのようにして自分の傷と向き合おうとしたのかを解明できればミッション完了です。そのような作業は、私たちが他人と出会ったり、その出会いを通して自分たちの内面を深く知れることがあると極めて相似的です。完全に他人である作者の体

験を文章を経由して追いかけ、その中を探ろうとする。その行為は、結果的に私たち自身の内面にも返ってきます。他者の内面を理解しようとする試みを通じて、期せずして私たちの内面も見ることができます。これが、文学作品研究の醍醐味です。作品との偶発的な出会いや、自分と作品の間に唐突に生じる偶然の一一致。これもみな、作品との「ご縁」です。そして、他人を理解しようとする試みを通して、自分自身の理解も進みます。

### 「キッカケ」を手に入れるか 否かはあなた次第

さて、ここまででは人や作品との偶発的で貴重な出会いについて書いてきました。私にも実に摩訶不思議な出会いが沢山ありました。当然ながら、皆さんにもご縁は必ず訪れます。もしくは気付いていないだけで、既に多くのご縁に恵まれているかもしれません。まだと思う人は、取り敢えず何かをやってみてください。世の中のルールに抵触しないことであれば、何でもいいと思います。それが触媒になって、何かがきっと動き始めるのだから。例えば、遠い田舎町にふらっと出かけてみる。海外に取り敢えず行ってみる。彼氏や彼女作りにトライしてみる。資格試験の勉強をしてみる。ちょっと真面目な映画をたくさん見る。純文学作品を読んでみる……。三日坊主で終わっても、成果らしい成果なんて無くとも、それで良いんです。だって、そんな行き当たりばったりで漠然とした行動を通して、ご縁は生まれるものなのですから。

(法学部講師：英語担当)



